

2023年3月期 第1四半期

決算説明資料

株式会社ナガワ (証券コード : 9663)

2022.7.25

2023年3月期 第1四半期 連結決算概況

(2022/4/1 ~ 2022/6/30)

B/S	4
P/L	5
要素別売上高増減	6
四半期ごとの売上高推移	7
セグメント別	8
ユニットハウス事業	9
モジュール・システム建築事業	10
建設機械レンタル事業	11
設備投資額と減価償却額	12
免責事項	13

2023年3月期第1四半期
連結決算概況

連結決算概況—B/S

	FY2021 Q1	FY2022 Q1	FY2023 Q1	YonY	
	20年4-6月	21年4-6月	22年4-6月	増減	増減率
※単位：百万円					
流動資産	23,258	23,924	22,181	△1,743	△7.3%
貸与資産	7,966	8,659	10,015	1,355	15.7%
固定資産	25,320	29,258	32,721	3,462	11.8%
総資産	48,579	53,182	54,902	1,719	3.2%
流動負債	3,643	3,887	4,254	366	9.4%
純資産	44,768	48,438	50,562	2,124	4.4%
自己資本比率 (%)	92.2%	91.1%	92.1%	1.0pt	-
1株当たり純資産 (円)	2,873.51	3,093.21	3,216.32	123.11	4.0%

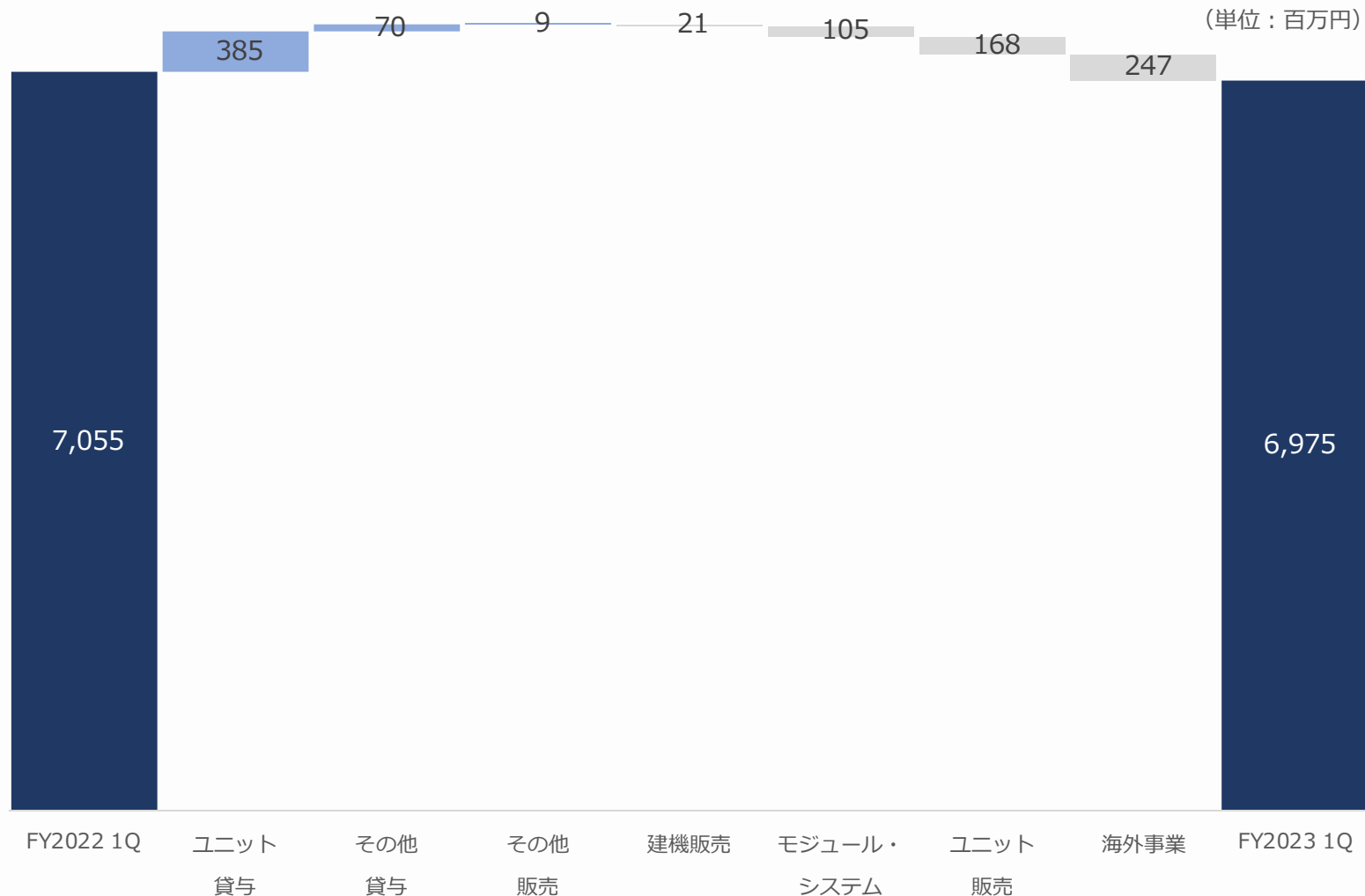
連結決算概況－P/L

	FY2021 Q1 20年4-6月	FY2022 Q1 21年4-6月	FY2023 Q1 22年4-6月	YonY	
※単位：百万円				増減	増減率
売上高	6,123	7,055	6,975	△79	△1.1%
販売収入	2,901	3,406	3,679	273	8.0%
レンタル収入	3,221	3,649	3,296	△352	△9.7%
売上総利益	2,665	2,970	2,974	3	0.1%
営業利益	812	1,002	931	△70	△7.1%
経常利益	981	1,143	1,074	△69	△6.0%
当期純利益（※）	652	751	739	△12	△1.6%

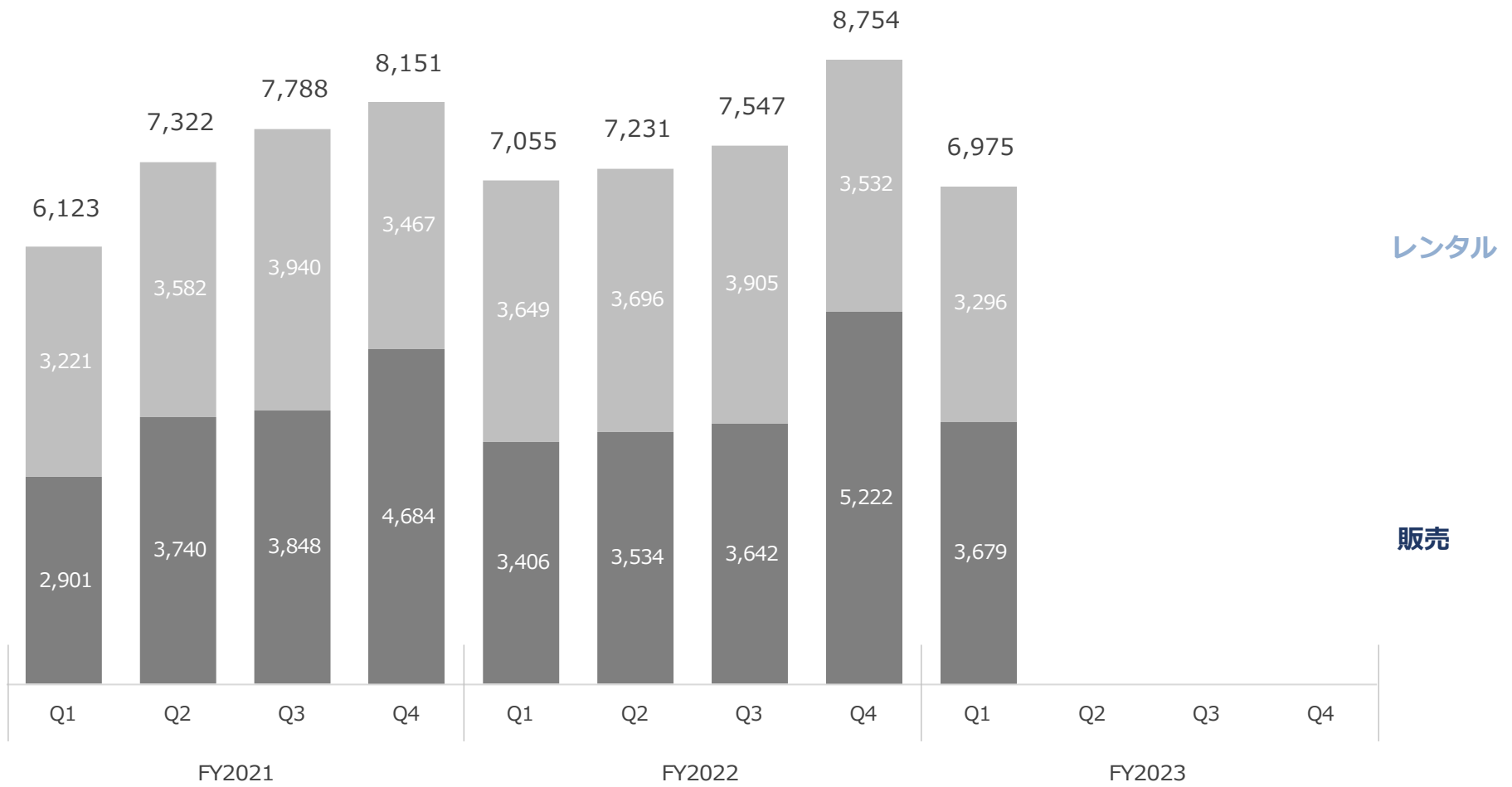
※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益を示す。

連結決算概況—要素別売上高増減

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しているものの、2022年1月より適用されていたまん延防止等重点措置が3月21日をもって全面解除されたことや、ワクチン接種の普及等、水際対策の緩和も相まって経済活動には徐々に持ち直しの動きがみられました。しかしながら当社におきましては、世界的な資源価格の高騰による物価上昇や、国際情勢の緊迫化がもたらす地政学的リスクの顕在化等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。



連結決算概況—四半期ごとの売上高推移



連結決算概況－セグメント別

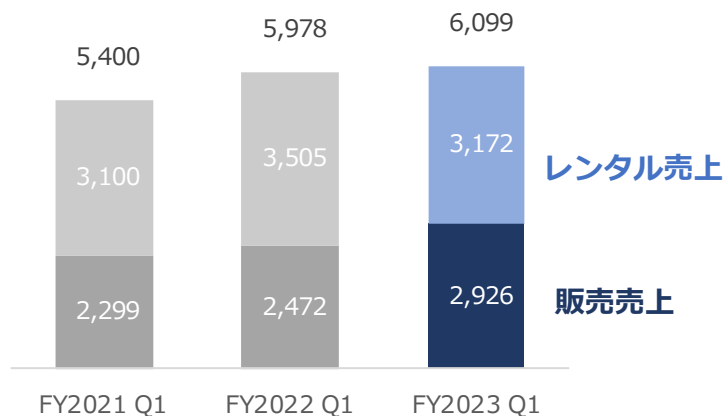
	FY2021 Q1 20年4-6月	FY2022 Q1 21年4-6月	FY2023 Q1 22年4-6月	YoY	
※単位：百万円				増減	増減率
売上高合計	6,123	7,055	6,975	△79	△1.1%
ユニットハウス事業	5,400	5,978	6,099	121	2.0%
モジュール・システム建築事業	577	876	716	△159	△18.2%
建設機械レンタル事業	145	200	159	△40	△20.4%
営業利益合計	812	1,002	931	△70	△7.1%
ユニットハウス事業	795	949	897	△52	△5.6%
モジュール・システム建築事業	58	82	65	△16	△19.9%
建設機械レンタル事業	△27	△16	△17	△1	-
全社消去	△13	△13	△14	△1	-

※全社消去の算定基準を2021年3月期より変更したため、2020年の数値を変更後の基準に合わせて変更しています。

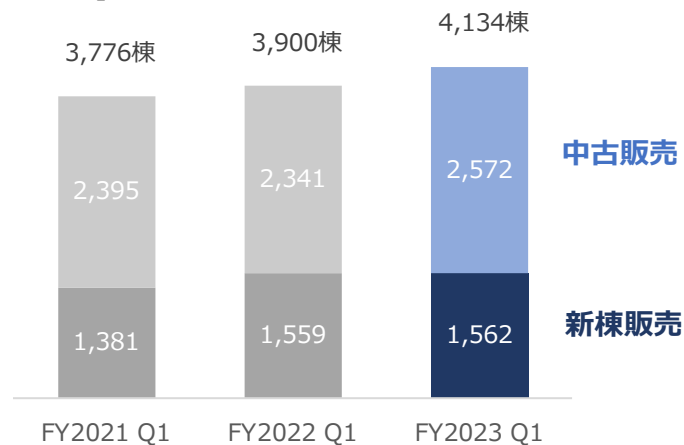
連結決算概況—ユニットハウス事業

ユニットハウス事業は、前期のオリンピック関連需要の剥落によりレンタル売上が減少する中で、新棟販売および中古販売が好調に推移し、増収を確保した。また、生産に関しては引き続き増産体制を維持し、受注機会の確保にも尽力した。

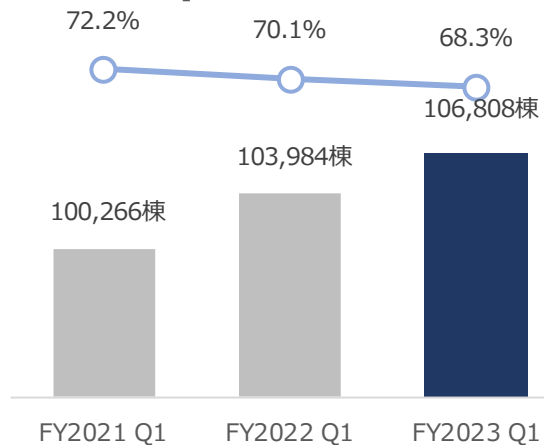
[販売売上とレンタル売上]



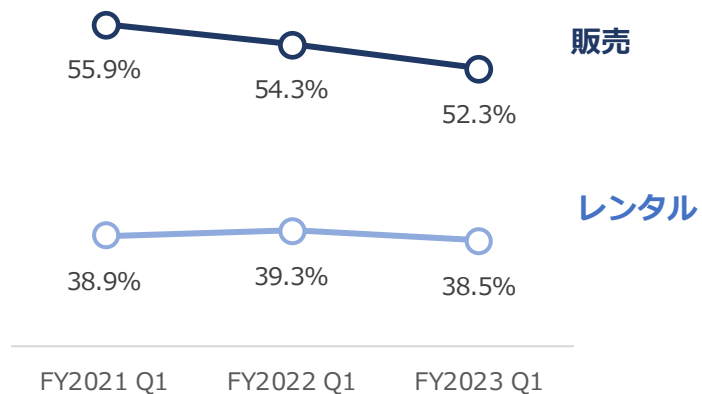
[販売棟数]



[保有棟数と稼働率]



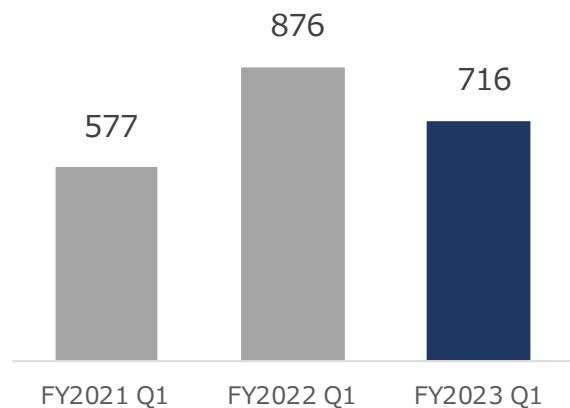
[売上総利益率]



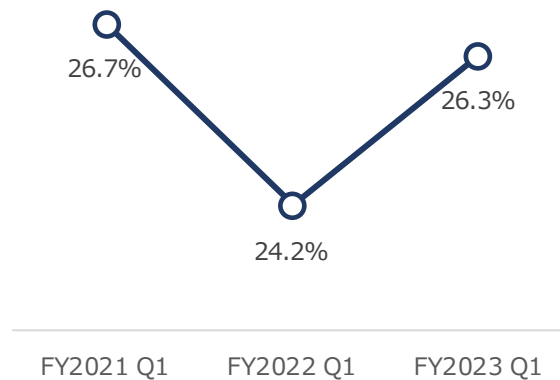
連結決算概況ーモジュール・システム建築事業

モジュール・システム建築事業は、オリンピック関連の剥落を埋めることができず減収となっている。
大型物件の計上については第一四半期はなかったものの、第二四半期に向けての受注残高は堅調に推移している。

[売上高推移]



[売上総利益率]



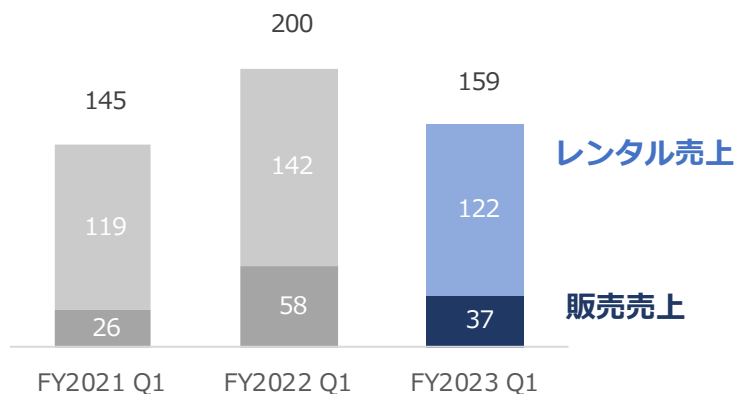
連結決算概況ー建機レンタル事業

建設機械レンタル事業は、道南地区における工事発注の鈍化により減収となったものの、第二四半期以降は止まっていた工事の発注が堅調に推移する見込。

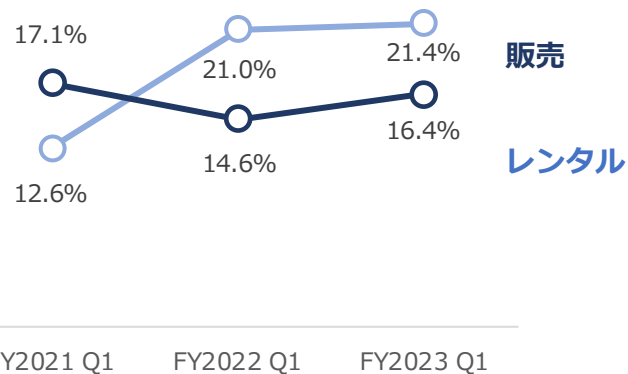
建設機械の売却市場は海外情勢の不透明さから鈍い動きとなっているが、10月以降は東南アジアの建設機械市場が持ち直す見込みである。



[販売売上とレンタル売上]



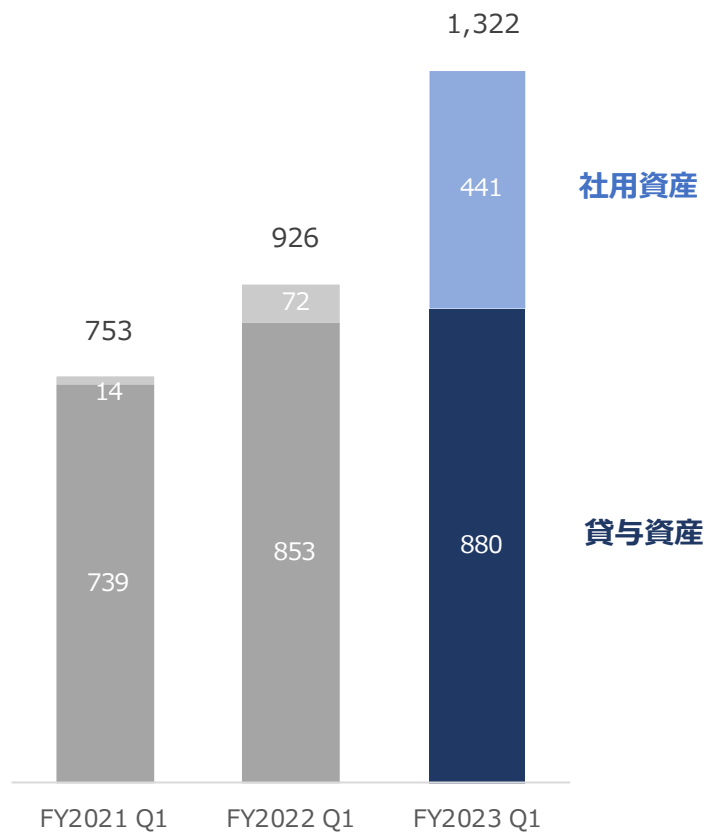
[売上総利益率]



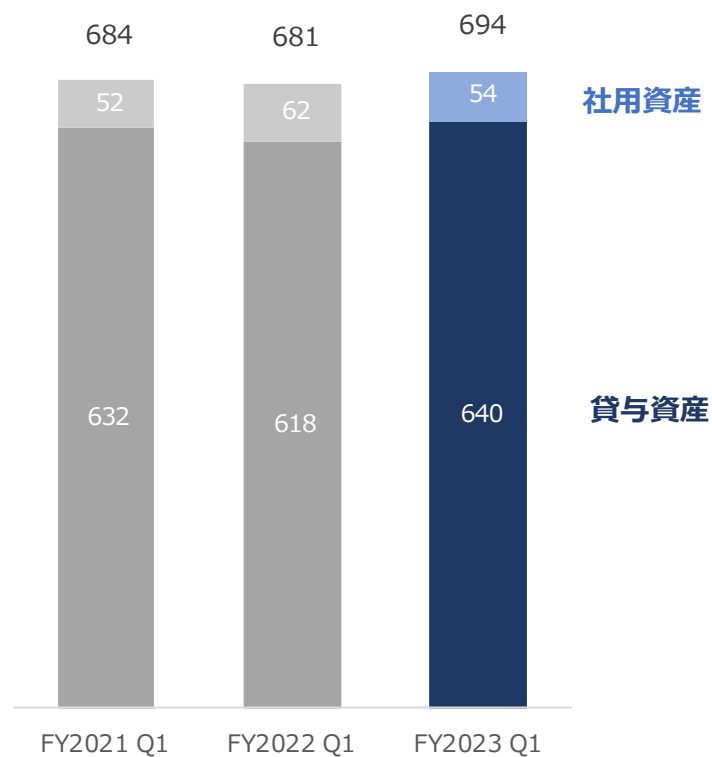
連結決算概況－設備投資額と減価償却額

前期に引き続き生産を最大限強化し、繁忙期に向けてあらかじめ適地に在庫を配備する施策を継続している。
社用資産については岡山工場や春日部展示場への投資を行っており、引き続き積極的な展示場展開を進める予定。

[設備投資額推移]



[減価償却額推移]



免責事項

この資料は、株式会社ナガワ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、本資料には、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

以上を踏まえ、投資をおこなう際は投資家の皆様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

※決算短信や、その他の資料は弊社HPにてご確認ください。

株式会社ナガワ | IRライブラリー

<https://group.nagawa.co.jp/ir/library.html>

